

桃の花

池松 孝子

「桃源郷」と呼ばれる観光地は全国の桃の産地にたくさんある。過去に私が訪ねたところでも、福島、山梨、長野、和歌山など。

三月中旬からまだか、まだかと待つ。今が見頃と思われるころ、天気と相談して「よし」となったら迷うことはない。早朝、車を出す。日帰りにちょうどいい距離はやはり、甲府、笛吹市あたりだ。

一時間ちよっと走ると、富士河口湖町から笛吹市にまたがる御坂峠に出る。この御坂峠から富士を望む。ここからの富士は葛飾北斎も描いている。また御坂峠ずい道の横にある天下茶屋は、井伏鱒二、太宰治も訪ねていて、「富岳百景」の「富士には月見草がよく似合う」の碑がある。

三月下旬に咲き始めた一万本を超える桃の花は、徐々に標高の高いところへと広がっている。最近、運転していて楽しいのが、幹線道路沿いの畑の桃の木の下に菜の花が植えられていることだ。そこで見られる桃の花のピンクと菜の花の黄色のコントラストは素晴らしく、丹精してくれる農家に感謝したい。

ほどなく笛吹市に出る。まっすぐ笛吹川フルーツ公園を目指す。ここから見下ろす甲府盆地は圧巻だ。桃の花は一面に咲きほこり、大きく桃色にけぶっている。「桃源郷」の名の通り見事な眺めである。市の中ほどに笛吹川が流れる。その扇状地一帯が桃色に染まっているのだ。静かにこの光景を満喫できる喜びに浸る。人ごみを避けて早朝出かけてきた甲斐もあろうというものだ。

目に入るのは、南アルプスを背景に敷き詰めたピンクの絨毯である。盆地を囲む周囲のなだらかな斜面を這うようにも見える。高い所から俯瞰して楽しむのはなおい。

桃咲いて甲斐一国を曇らす

神蔵 器

今度は、畑と畑の間の道を歩いてみる。そこで受粉作業をしている農家の方に出会うのもうれしい。前年に剪定され、樹形が整えられた木に、まっすぐ若い枝がつんと伸びている。その枝にずらっと並んだ桃のつぼみを目にするとなんと穏やかな心持ちになる。